

第6回田野畑村社会福祉大会



2月29日、アズビィ楽習センターで第6回田野畑村社会福祉大会（主催：村社会福祉協議会、共催：村共同募金委員会・村民生委員児童委員協議会）を開催し、社会福祉関係者など約30人が参加しました。

式典では、多年にわたり社会福祉の増進に貢献された方々が表彰され、村社会福祉協議会の向川原巖^{いわ}会長から受賞者に表彰状が贈呈されました。

講演では、岩手県立県民生活センターの藤原隆博次長を講師に迎え、「消費生活出前講座・高齢者の消費者トラブル防止と見守りについて」と題して、高齢者からの相談が多い悪質商法の様々な手口と対処法をお話いただきました。

大会宣言

近年、少子高齢化と急速な人口減少の進行により、高齢者世帯や単身世帯の増加、格差や貧困、孤立・孤独、ひきこもり、差別や虐待、地域のつながりの希薄化などが大きな社会問題となっています。また、8050問題やダブルケア・ヤングケアラー問題などの新しい課題も出てきています。

新型コロナウイルス感染症は、昨年5月に感染症法上での位置づけが第5類に移行しましたが、長引くコロナ禍や昨今の物価高騰の影響により、生活に困窮する人々の増加が懸念され、幅広い社会層が深刻な生活危機に直面する状況が続いています。

さらに、本年1月1日に発生した能登半島地震では、北陸地方を中心に甚大な被害が発生しており、今後も日本各地で自然災害の頻発化・激甚化が懸念されています。

本村においては、「第2次田野畑村地域福祉計画（令和4年度～令和8年度）」を踏まえて、行政や関係機関・団体等と連携し、住民参加や協働による地域福祉活動やボランティア活動の支援、福祉コミュニティづくりなど、新たな地域課題に対応した地域福祉を一層充実させることが求められています。

このような状況の中で、私たち社会福祉に携わる者は、地域で暮らすすべての人が生きがいを持って、社会参加を果たし、誇りを持って生き続けることができる「地域共生社会」の実現に向けて、生活課題・地域課題の解決に向けた取り組みを進めていかなければなりません。

第6回となる本大会では、私たち社会福祉関係者が心一つにして、共に支え合い、人にやさしい福祉のむらづくりを実現するための共通認識を深め、更なる研さんを積むことを誓い、次のことに取り組んでいくことを、ここに宣言します。

- 多様化する生活課題や地域課題を解決していくため、村民一人ひとりが福祉への理解を深め、思いやりの心を育む「共に支え合うひとづくり」に努めます。
- 地域に関わるボランティア活動や団体活動などの地域活動を促進し、地域福祉を担う人材の育成に努め、「福祉を支える地域づくり」を推進します。
- 保健・医療・福祉が連携し、総合的なサービスを提供できるように、情報提供・相談支援体制の充実を図り、サービスの基盤整備を進め、「誰もが安心して必要な支援を受けられる体制づくり」に努めます。
- 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくため、ユニバーサルデザインを推進し、地域で防犯・防災活動に努め、「ひとにやさしい福祉のむらづくり」に努めます。



講演の後、村社会福祉協議会の小野寺しげ子副会長が大会宣言し、参加者の満場一致で採択されました。



被表彰者

田野畑村社会福祉協議会長表彰

- ◆評議員・役員
奥地 シミ（評議員）
上山 明美（副会長）
- ◆特別功労者
佐藤建設株式会社
熊谷建設株式会社
嘉藤 正義
佐藤 百合子
工藤理容所 工藤 鈴子
理容鈴木 鈴木 秀樹

岩手県共同募金会長感謝状伝達

- ◆奉仕者（個人）
金子 信一（沼袋行政区長）
※順不同、敬称略